

令和 5 年度 医療に関する県民意識調査、 インターネットアンケートの結果について

令和 5 年度第 2 回千葉県アレルギー疾患医療連絡協議会

令和 5 年 1 1 月 1 4 日（火）
千葉県健康福祉部疾病対策課

- 医療に関する県民意識調査
- インターネットアンケート

調査概要

(1) 背景・目的

- ・現在の「千葉県保健医療計画」の計画期間は令和5年度末で満了を迎えることになる。
- ・県民の医療に関する考え等を伺い、次期計画に反映させることを目的に、インターネットアンケート方式による意識調査を実施。

(2) 対象

千葉県民 10,000人

(3) 調査方法

○実施方式：インターネットアンケート調査

○実施時期：令和5年7月

○回収数：約10,000人（モニターに対して調査を配信し、回収が予定数に達するまで実施）

楽天インサイト株式会社が保有する全国モニターから、10,000人を対象とした。配信後先着10,000サンプルを有効回答とする場合、同社の登録モニター数の割合が高い層に偏ってしまうため、千葉県之母集団（令和2年国勢調査人口による）の性別・年齢区分別の構成比に応じて、各区分の目標回収数（上限値）を設定した。詳細は下表のとおり。

図表1-1 本調査の目標回収数（性別・年齢区分（10歳階級）別の計画値）

年齢階級	令和2年国勢調査人口 (千葉県)		目標回収数 (左記の1万人換算)		性別・年齢区分別の構成比		
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男女計
20歳代	341,864	319,315	646	603	6.5%	6.0%	12.5%
30歳代	375,998	346,597	711	655	7.1%	6.6%	13.7%
40歳代	479,742	444,407	907	840	9.1%	8.4%	17.5%
50歳代	465,907	433,098	881	819	8.8%	8.2%	17.0%
60歳代	356,688	357,876	674	676	6.7%	6.8%	13.5%
70歳以上	599,621	770,029	1,133	1,455	11.3%	14.6%	25.9%
合計	2,619,820	2,671,322	4,952	5,048	49.5%	50.5%	100.0%

なお、データクリーニングにより、各区分とも有効回答数は目標回収数をやや下回ることが想定されるため、「回収数の実績値が計画値を上回る区分」（30歳以上の男性、70歳未満の女性）については目標回収数の110%を上限とし、「回収数の実績値が計画値を下回る区分」（20歳代の男性、70歳以上の女性）の回収件数の推移が横ばいになった時点で回収を終了した。

(4) 調査内容

全17項目（内、アレルギーに関する調査1項目）

○アレルギー疾患について

- ・アレルギー疾患の有無
- ・自身が持っているアレルギー疾患
- ・アレルギー疾患への対応状況

(5) 調査結果の記載に関する留意点

千葉県之母集団（令和2年国勢調査人口による）の性別・年齢区分別の構成比と、楽天インサイト株式会社が保有する全国モニターの構成比が異なるため、各区分で回収数の計画値を実績値で除した値を「重みづけ係数」とし、重みづけ集計（分母は仮想上の県民10,000人）を行った。詳細は下表参照。

図表 1-2 性別・年齢区分別の重みづけ係数

年齢階級	【A】回収数（計画値）			【B】回収数（実績値）			【A/B】重みづけ係数	
	男性	女性	計	男性	女性	計	男性	女性
20歳代	646	603	1,249	418	663	1,081	1.55	0.91
30歳代	711	655	1,366	782	721	1,503	0.91	0.91
40歳代	907	840	1,747	998	924	1,922	0.91	0.91
50歳代	881	819	1,700	969	901	1,870	0.91	0.91
60歳代	674	676	1,350	741	744	1,485	0.91	0.91
70歳以上	1,133	1,455	2,588	1,246	601	1,847	0.91	2.42
合計	4,952	5,048	10,000	5,154	4,554	9,708		

調査結果

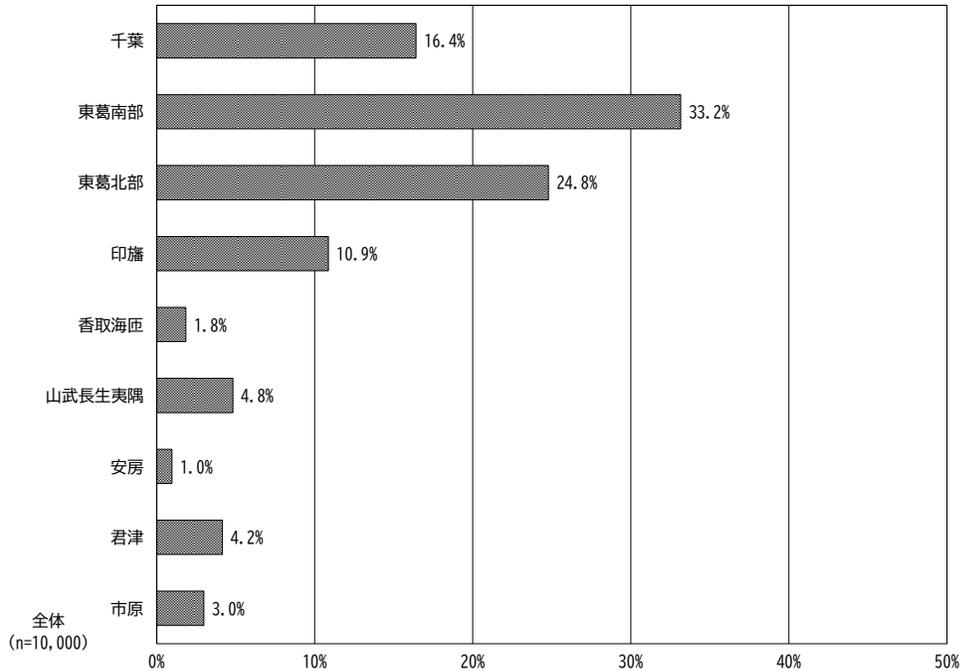
(1) 回答者の属性

本調査に協力した回答者の居住地域を二次医療圏別にみると、

「東葛南部」(33.2%)、「東葛北部」(24.8%)、「千葉」(16.4%)、「印旛」(10.9%)の順が多かった。

その他の二次医療圏はいずれも回答割合は5%未満であった。

図表 1-3 回答者の居住地域（二次医療圏×性別・年齢区分（10歳階級）別）



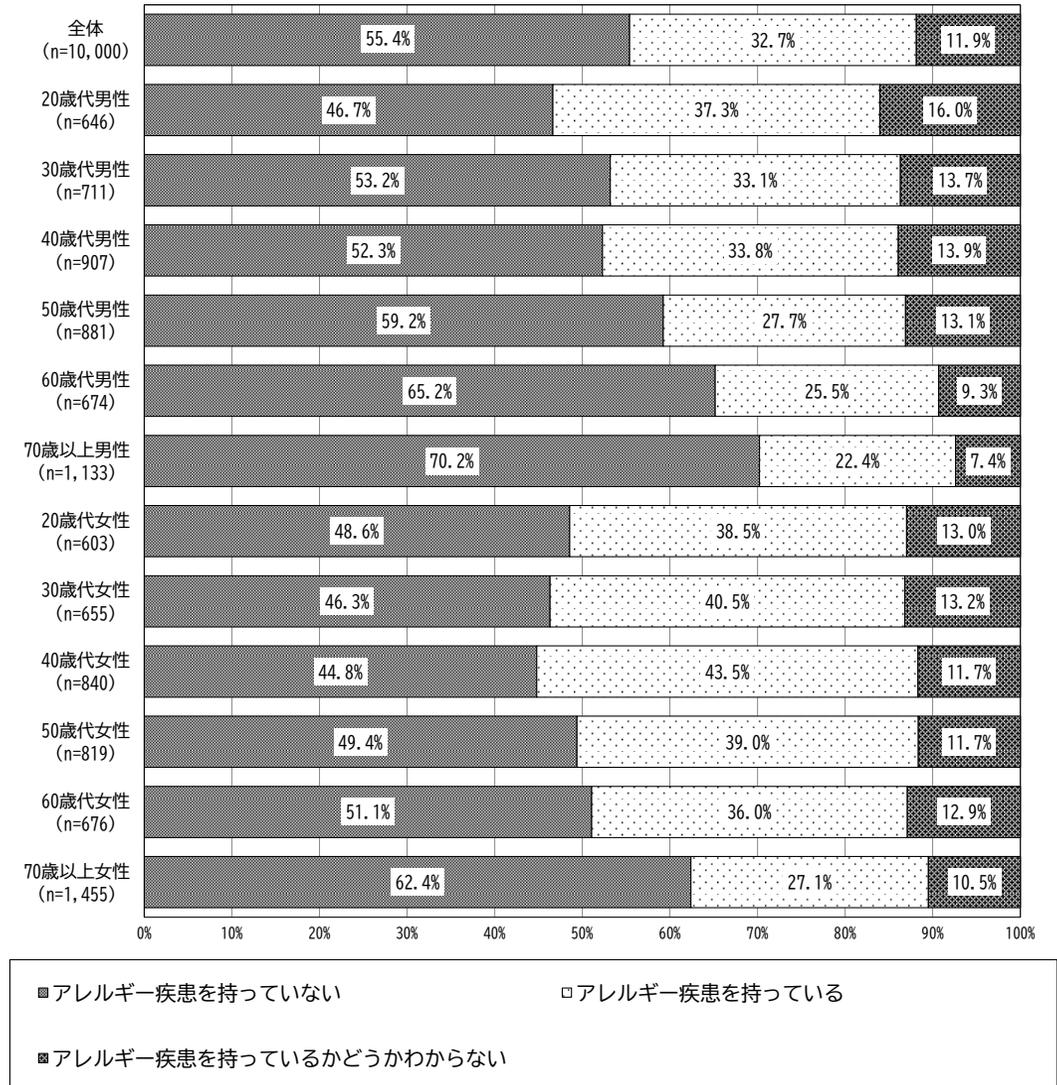
	全体 (n=10,000)	20歳代男性 (n=646)	30歳代男性 (n=711)	40歳代男性 (n=907)	50歳代男性 (n=881)	60歳代男性 (n=674)	70歳以上男性 (n=1,133)	20歳代女性 (n=603)	30歳代女性 (n=655)	40歳代女性 (n=840)	50歳代女性 (n=819)	60歳代女性 (n=676)	70歳以上女性 (n=1,455)
千葉	16.4%	16.5%	15.1%	15.2%	17.6%	14.8%	16.5%	17.9%	15.4%	16.1%	20.5%	15.5%	15.8%
東葛南部	33.2%	35.6%	34.3%	35.4%	33.0%	31.3%	27.3%	37.6%	37.0%	31.1%	31.9%	32.3%	34.4%
東葛北部	24.8%	27.5%	24.0%	25.3%	25.1%	22.9%	25.7%	22.8%	23.9%	26.7%	22.4%	24.3%	25.3%
印旛	10.9%	9.8%	10.2%	9.6%	9.7%	14.3%	12.7%	10.3%	9.6%	10.6%	10.9%	11.8%	10.6%
香取海匠	1.8%	1.2%	2.4%	1.7%	1.7%	2.4%	2.2%	1.1%	3.3%	1.9%	1.7%	1.9%	1.2%
山武長生夷隅	4.8%	2.6%	4.7%	3.9%	4.5%	5.5%	5.9%	3.8%	2.6%	4.5%	5.2%	7.1%	5.7%
安房	1.0%	0.7%	0.8%	0.9%	1.1%	1.1%	1.4%	0.3%	1.4%	1.1%	0.9%	0.5%	1.0%
君津	4.2%	4.1%	5.0%	4.7%	4.1%	4.2%	4.4%	3.3%	4.6%	5.0%	3.4%	3.2%	3.8%
市原	3.0%	1.9%	3.5%	3.3%	3.1%	3.4%	3.9%	3.0%	2.2%	2.9%	3.1%	3.4%	2.2%

(2) アレルギー疾患の有無

あなたは現在、アレルギー疾患（気管支ぜん息、アトピー性皮膚炎、アレルギー性鼻炎、アレルギー性結膜炎、花粉症、食物アレルギー等）を持っていますか。当てはまるもの1つをお選びください。

「アレルギー疾患を持っている」と回答した方の割合は、32.7%であった。その内訳を性別・年齢区分別にみると、男性・女性ともに年齢区分が上がるにつれて概ね減少傾向（男性：2～3割台、女性（40歳以上）：2～4割台）がみられた。

図表 1-4 アレルギー疾患の有無



(3) 自身が持っているアレルギー疾患

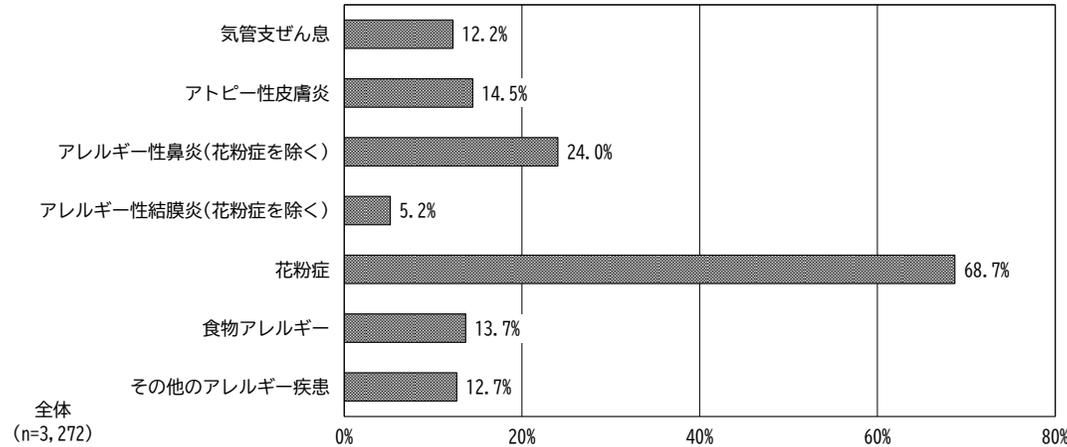
《「アレルギー疾患を持っている」と回答した方》

あなたが持っているアレルギー疾患は何ですか。当てはまるものすべてをお選びください。

「花粉症」(68.7%)、「アレルギー性鼻炎(花粉症を除く)」(24.0%)の順が多かった。

最も回答割合の高かった「花粉症」の内訳を性別・年齢区分別にみると、男性・女性ともに6～7割台であった。

図表 1-5 自身が持っているアレルギー疾患



	全体 (n=3,272)	20歳代男性 (n=241)	30歳代男性 (n=235)	40歳代男性 (n=306)	50歳代男性 (n=244)	60歳代男性 (n=172)	70歳以上男性 (n=254)	20歳代女性 (n=232)	30歳代女性 (n=265)	40歳代女性 (n=365)	50歳代女性 (n=319)	60歳代女性 (n=244)	70歳以上女性 (n=395)
気管支ぜん息	12.2%	9.0%	13.5%	14.5%	11.2%	7.9%	9.3%	10.2%	15.1%	14.4%	14.5%	11.9%	11.7%
アトピー性皮膚炎	14.5%	19.9%	21.6%	20.2%	16.4%	6.9%	6.5%	18.4%	16.4%	15.7%	13.7%	6.7%	10.4%
アレルギー性鼻炎(花粉症を除く)	24.0%	33.3%	32.8%	20.5%	20.5%	15.9%	16.1%	27.5%	28.8%	27.9%	23.4%	18.3%	22.1%
アレルギー性結膜炎(花粉症を除く)	5.2%	6.4%	7.7%	4.5%	4.5%	1.1%	2.5%	6.7%	5.1%	6.5%	6.0%	4.1%	5.5%
花粉症	68.7%	66.0%	68.7%	68.2%	67.5%	73.0%	71.0%	70.6%	65.8%	71.1%	70.9%	74.6%	61.3%
食物アレルギー	13.7%	16.7%	14.3%	10.1%	11.9%	8.5%	6.8%	16.9%	18.2%	16.2%	14.2%	11.9%	15.3%
その他のアレルギー疾患	12.7%	7.7%	5.8%	7.1%	13.8%	13.2%	13.6%	12.5%	11.6%	15.7%	14.2%	14.2%	18.4%

(4) アレルギー疾患への対応状況

《「アレルギー疾患を持っている」と回答した方》

この1年間、あなたはどのように対応していましたか。

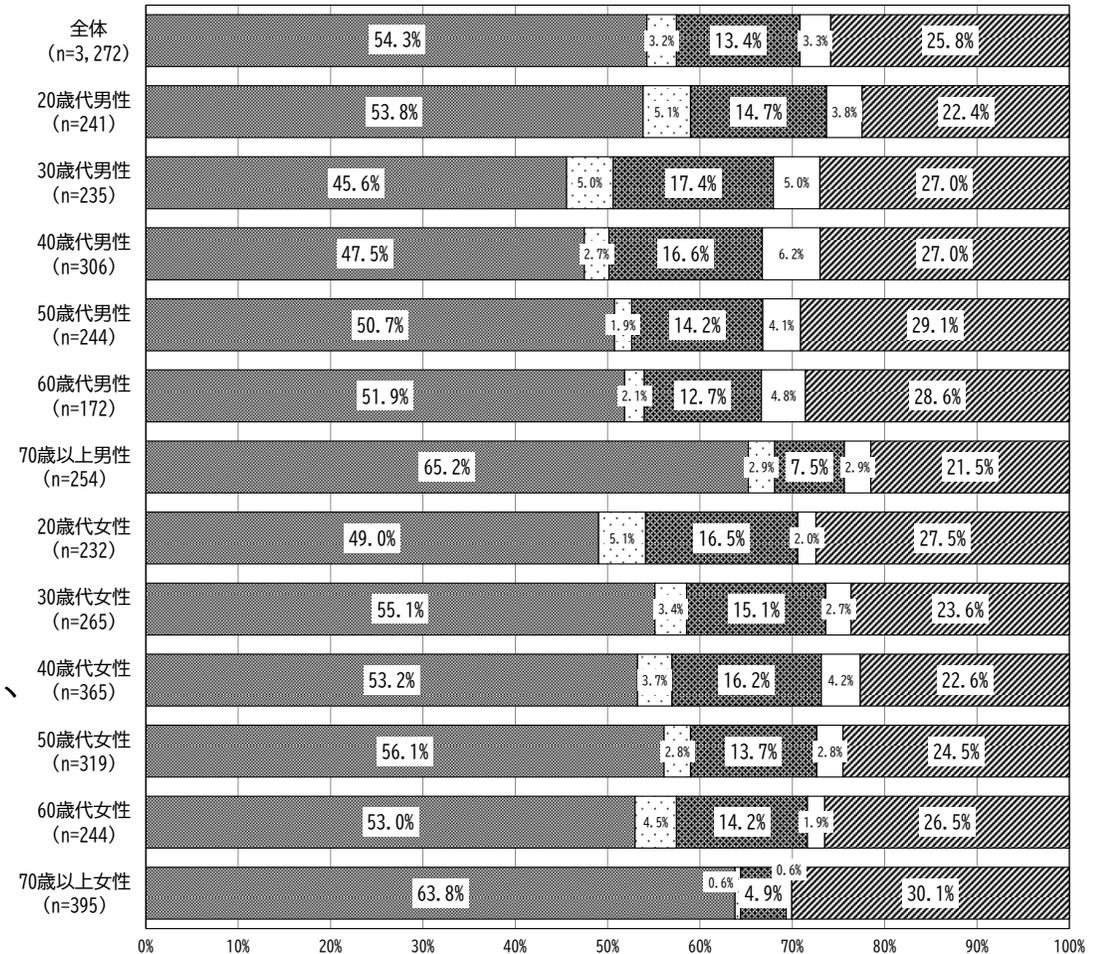
あなたの状況に最も近いもの1つをお選びください。

(複数を組み合わせてアレルギー疾患に対応している場合は、最も重視した(している)対応をお選びください。)

「医療機関で受診した」(54.3%)、「医療機関で受診したり、医薬品を用いたりしていない」(25.8%)の順が多かった。

最も回答割合の高かった「医療機関で受診した」の内訳を性別・年齢区分別にみると、男性・女性ともに4～6割台であるものの、20～60歳代は年齢区分によってばらつきがみられた。

図表 1-6 アレルギー疾患への対応状況



■ 医療機関で受診した

□ 薬局等で薬剤師に相談して、医薬品を購入した

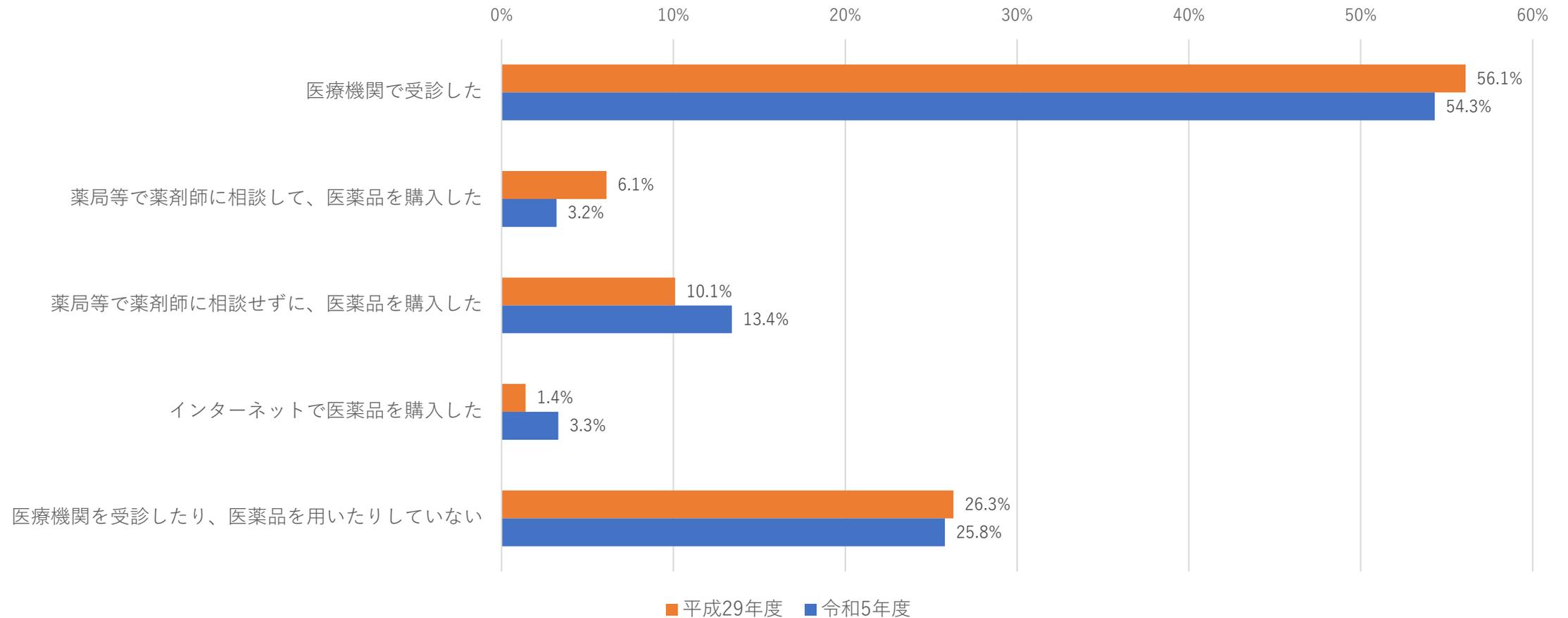
■ 薬局等で薬剤師に相談せずに、医薬品を購入した

□ インターネットで医薬品を購入した

■ 医療機関で受診したり、医薬品を用いたりしていない

過去の調査との比較

○アレルギー疾患への対応状況



- ・ 医療に関する県民意識調査

- ・ インターネットアンケート

調査概要

(1) 目的

- ・平成29年度に実施した本調査の意見や提案を参考に、平成31年3月に「千葉県アレルギー疾患対策推進計画（平成31年4月～令和5年3月）」を策定し、対策を推進してきたところである。
- ・今後、さらに取組を充実、強化するために「千葉県アレルギー疾患対策推進計画」を改定することから、県民の意見や提案を伺う。

(2) 対象

アンケート調査協力員 300人

※アンケート調査協力員

- ・報道広報課で、年度ごとにモニター（県内在住の満18歳以上）募集。
- ・調査協力員は、属性（年代・性別・居住地域）等を考慮して選定し、300人を登録する。

(3) 調査方法

○調査方法：インターネットアンケート専用フォームへの入力による回答

○実施時期：令和5年7月4日（火）～7月14日（金）

○回答状況：アンケート調査協力員300人のうち271人が回答（回答率 90.3%）

(4) 調査項目

問1. あなたは、アレルギー疾患に関する情報に関心がありますか。

問2. あなたは、アレルギー疾患に関する情報でどのようなことに関心がありますか。

問3. あなたは、ご自身または家族のことで、アレルギー疾患に関してお困りのことがありますか。

問4. どのアレルギー疾患でお困りですか。

問5. 困っているのはどのようなことですか。

問6. あなたは、「千葉県アレルギー相談センター」の電話相談やホームページを知っていますか。

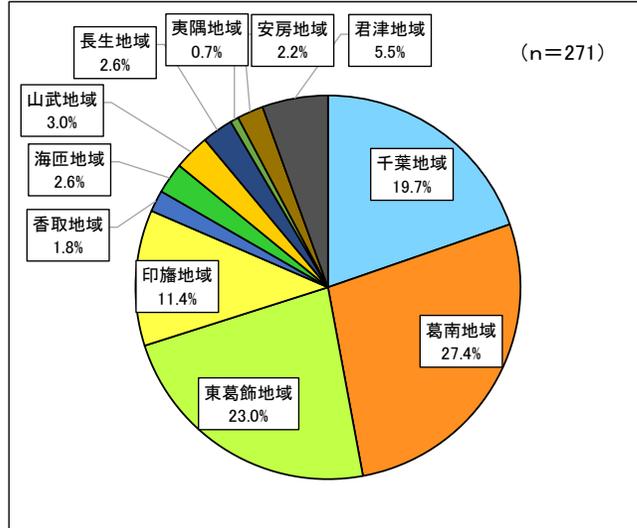
問7. あなたは、アレルギー疾患対策に関して、どのようなことを県に期待しますか。

問8. その他アレルギー疾患対策に関してご意見、ご要望があればお聞かせください。

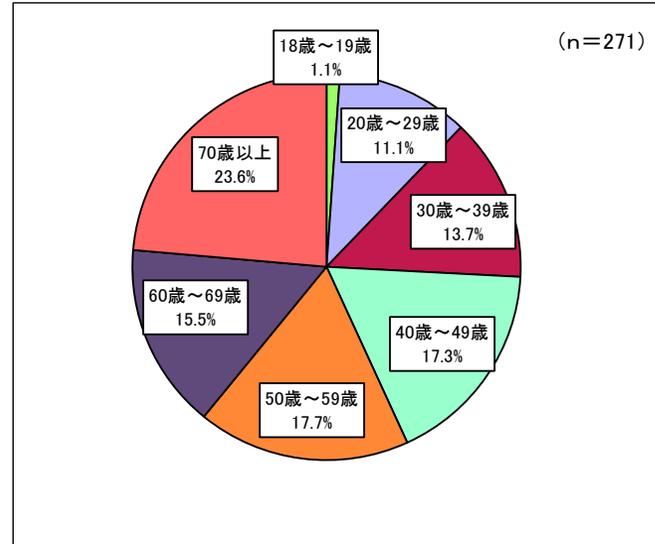
調査結果

<回答者の構成>

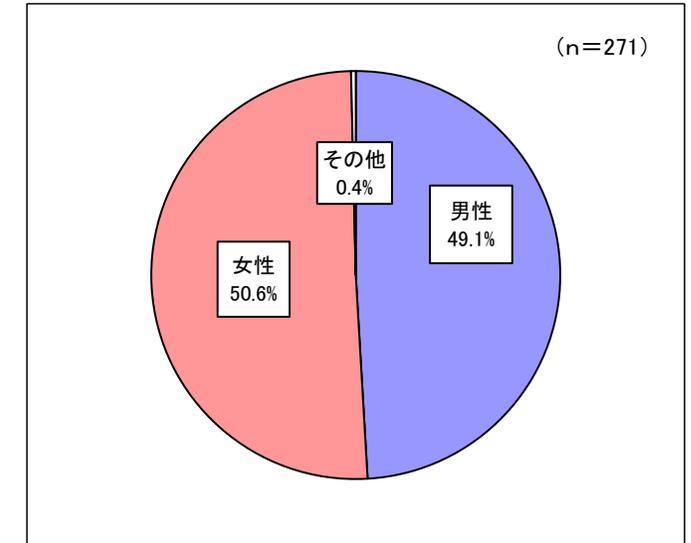
(1) 回答者の地域



(2) 回答者の年齢



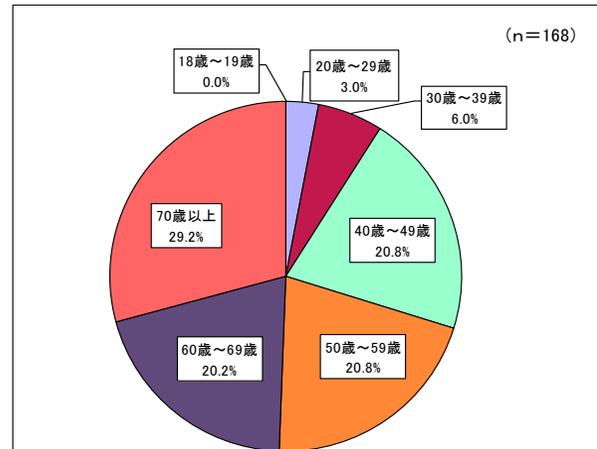
(3) 回答者の性別



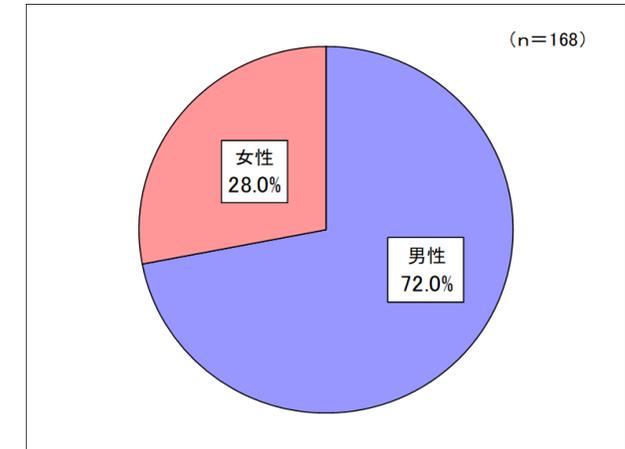
【参考】平成29年度調査結果

(1) 回答者の地域：不明

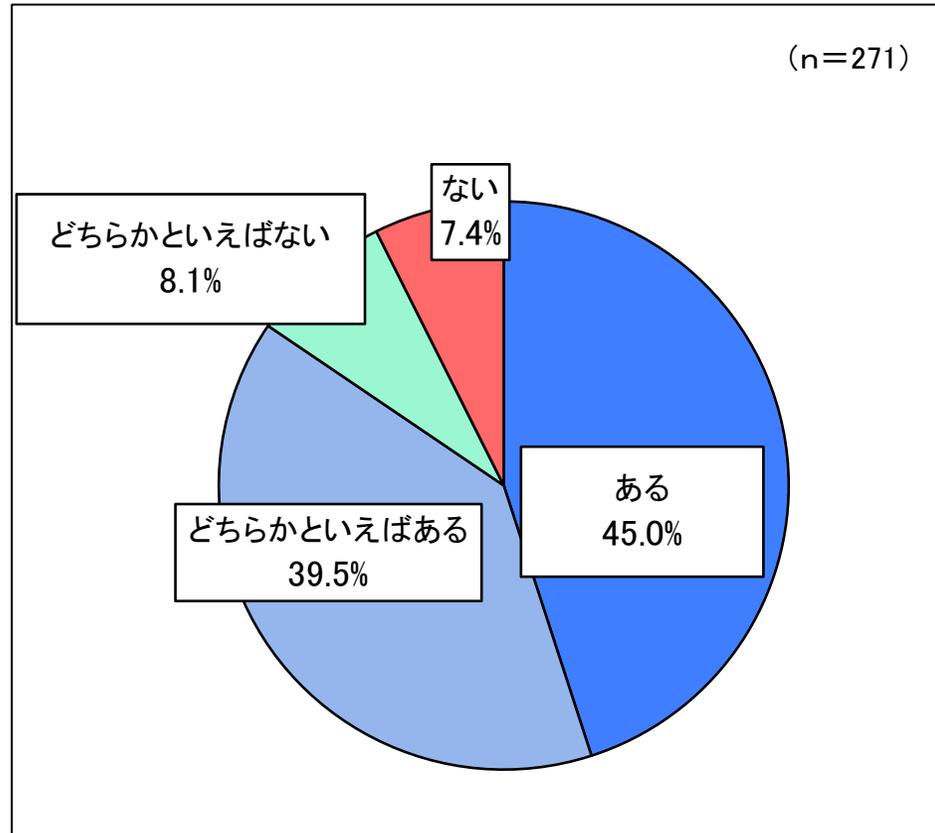
(2) 回答者の年齢



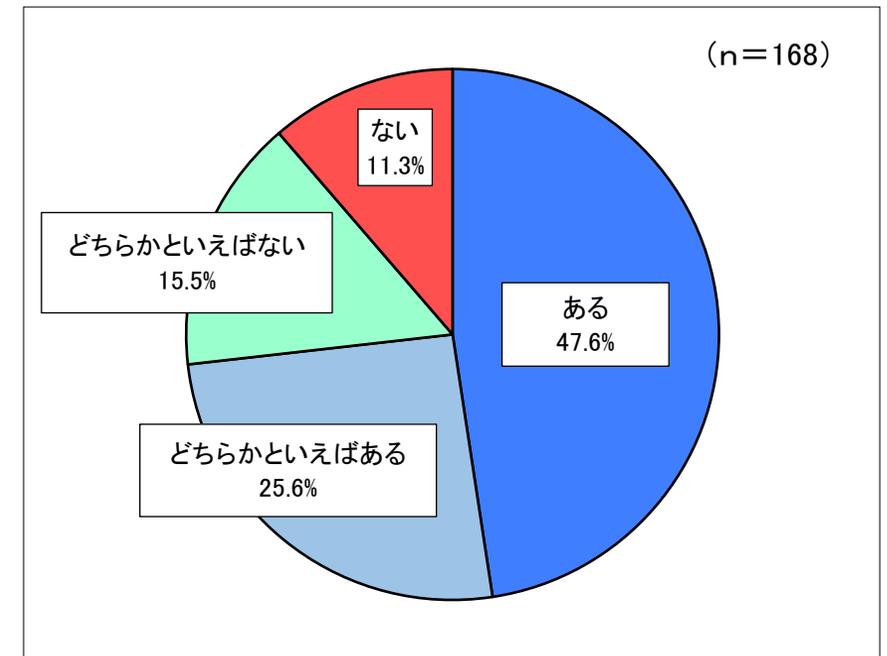
(3) 回答者の性別



問1. あなたは、アレルギー疾患に関する情報に関心がありますか。(1つだけ選択)



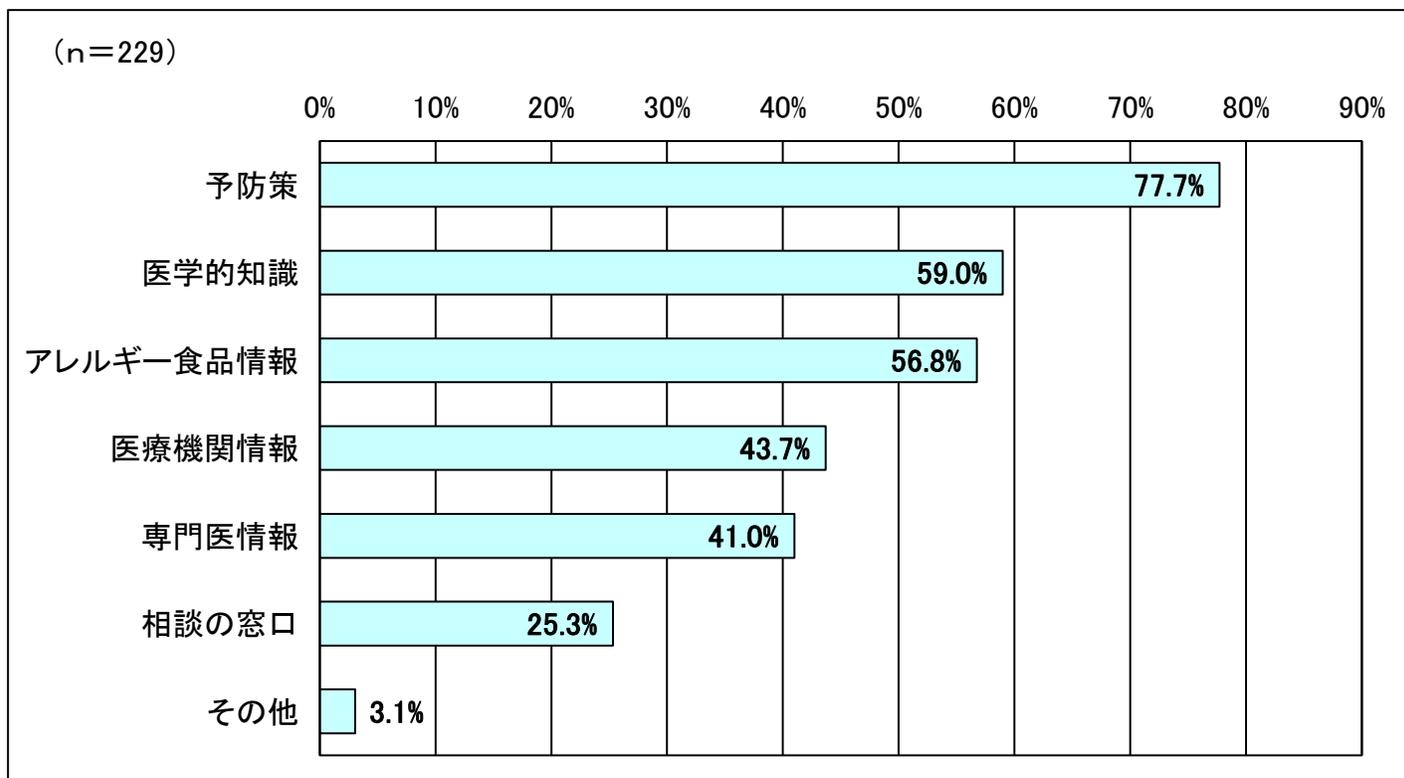
【参考】平成29年度調査結果



《問1で「ある」または「どちらかといえばある」と答えた方》

問2. あなたは、アレルギー疾患に関する情報でどのようなことに興味がありますか。

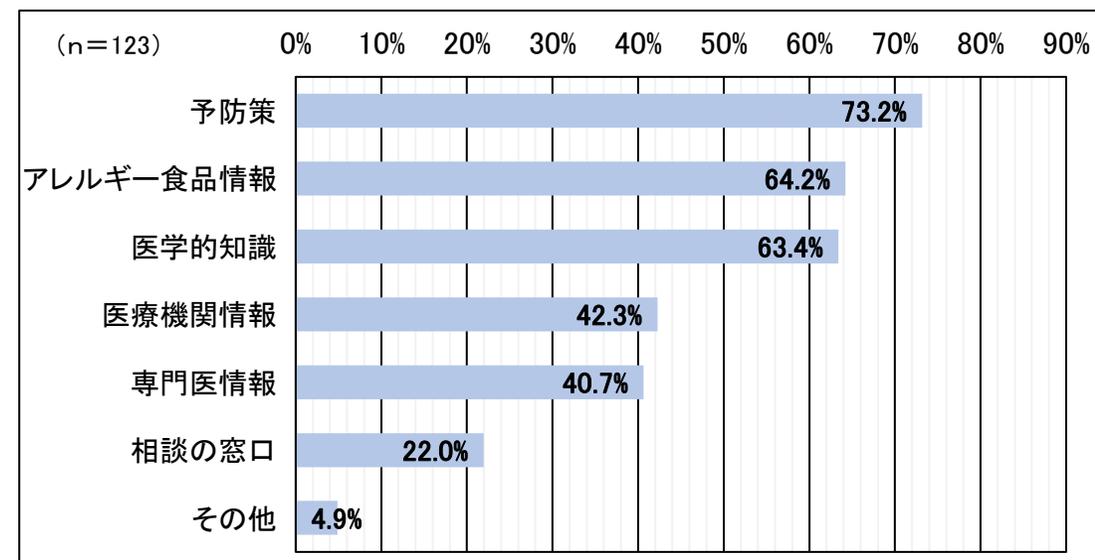
(あてはまるものすべて選択)



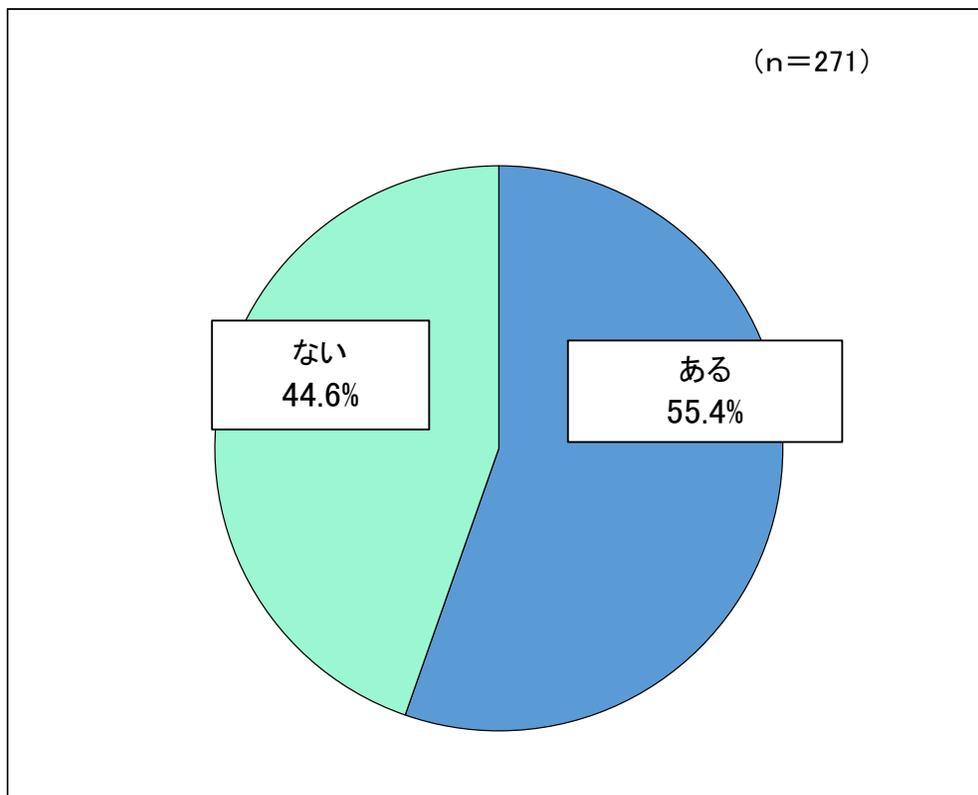
【その他】

- ・アレルギーとの上手な付き合い方
- ・花粉飛散情報
- ・学校での対応 など

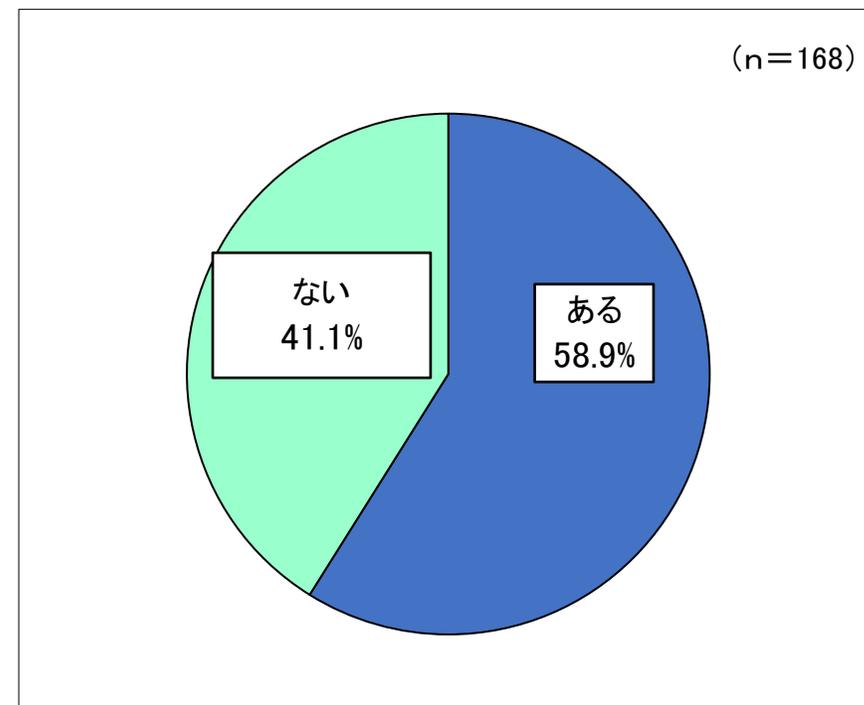
【参考】平成29年度調査結果



問3. あなたは、ご自身または家族のことで、アレルギー疾患に関してお困りのことがありますか。
(1つだけ選択)

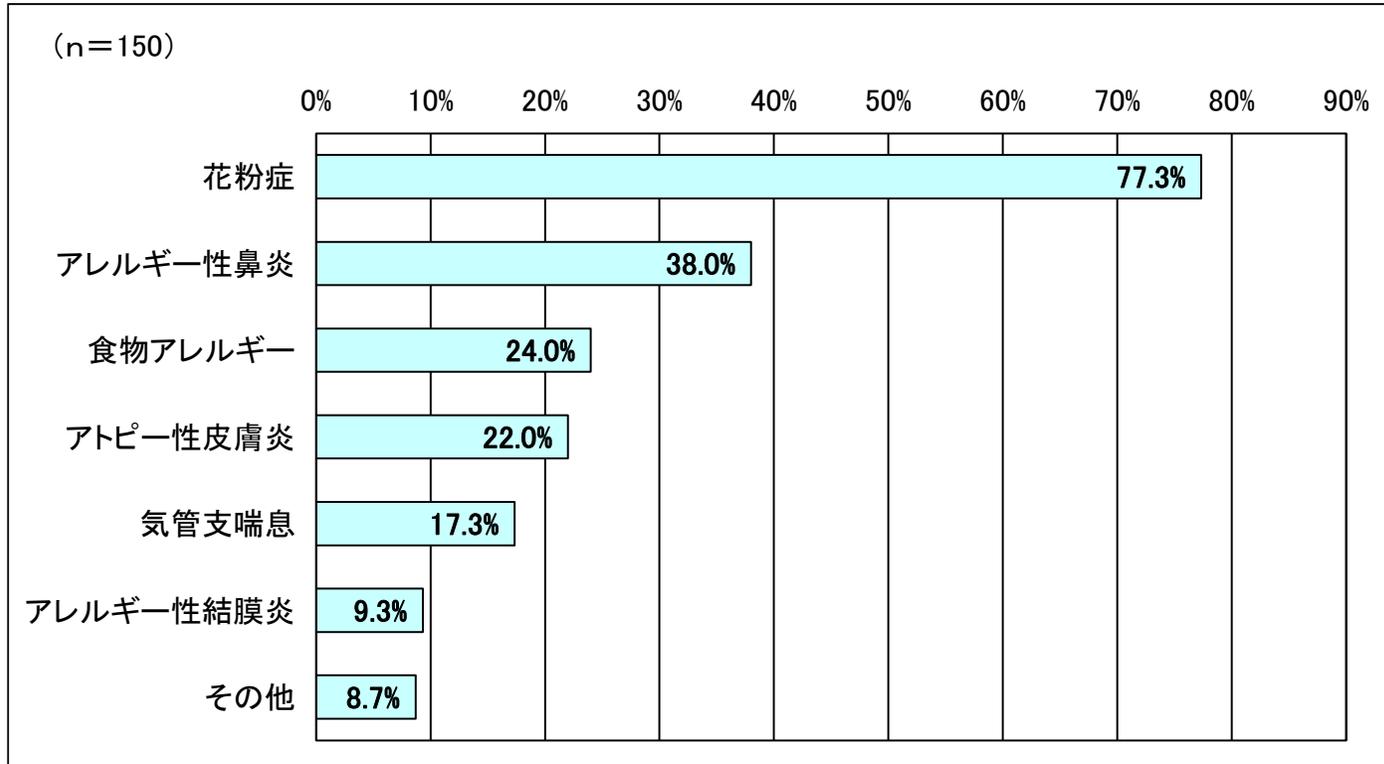


【参考】平成29年度調査結果



《問3で「ある」と答えた方》

問4. どのアレルギー疾患でお困りですか。（あてはまるものすべて選択）

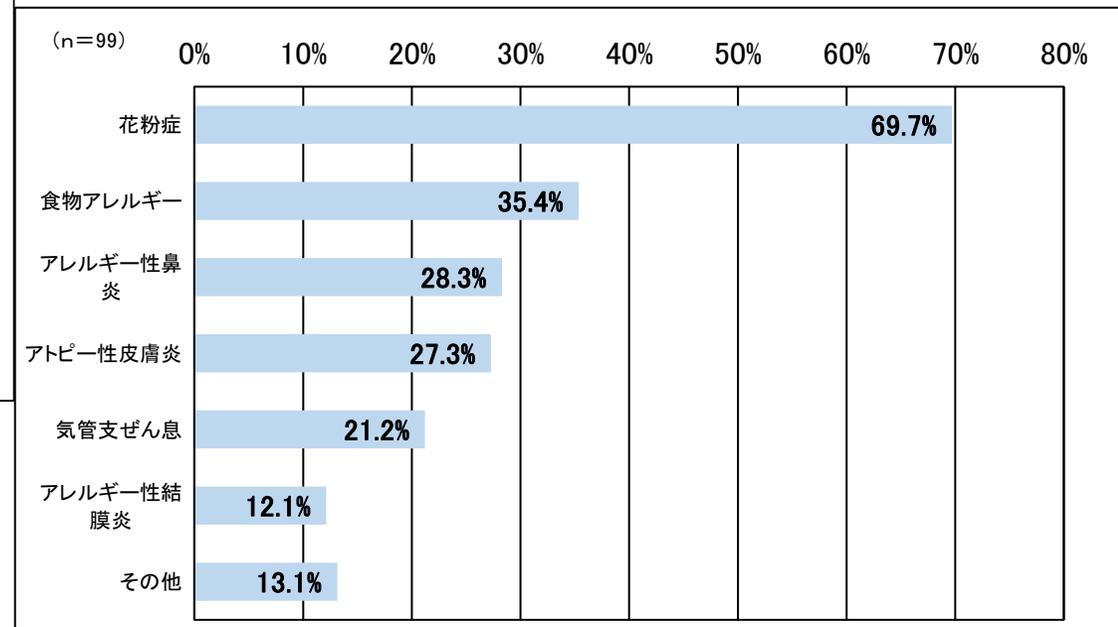


【その他】

- ・ 金属アレルギー
- ・ 日光アレルギー

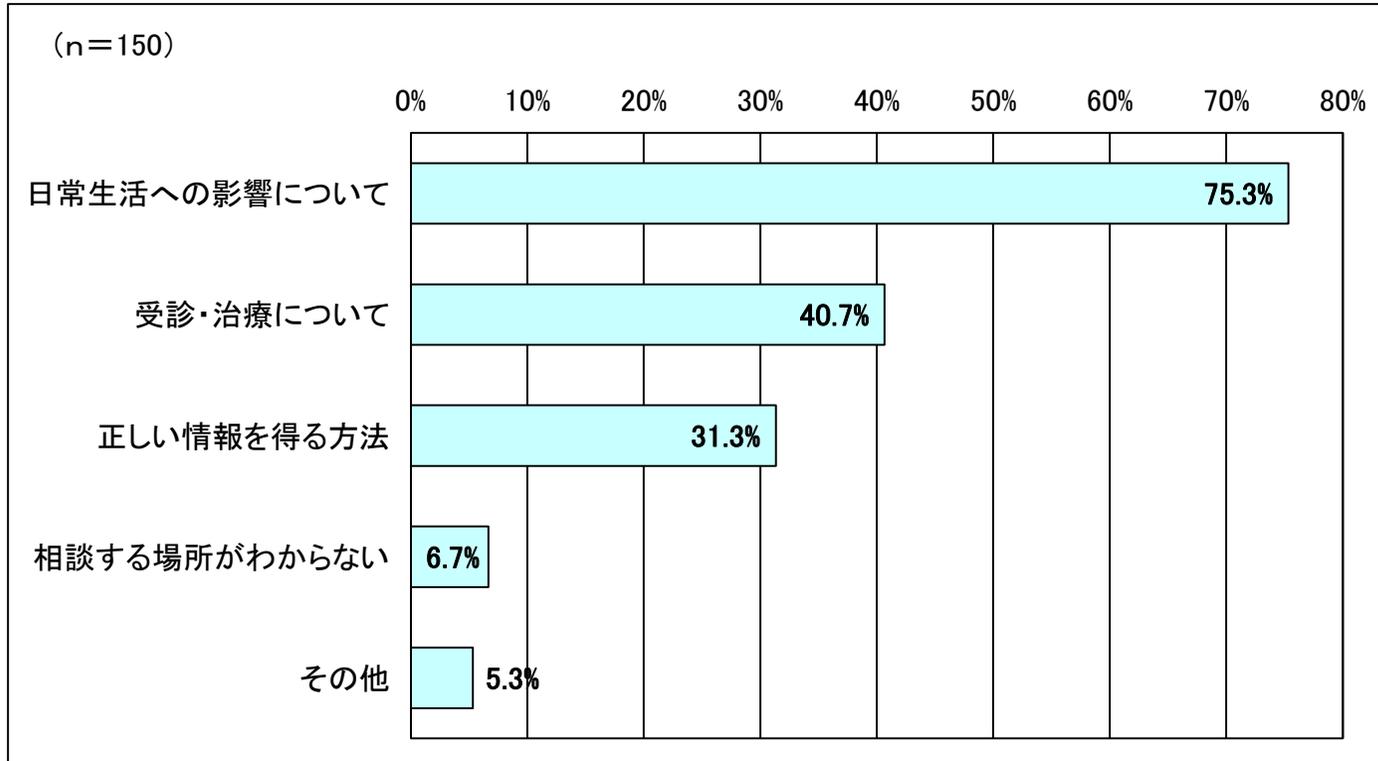
- ・ 薬
- ・ 蕁麻疹 など

【参考】平成29年度調査結果



《問3で「ある」と答えた方》

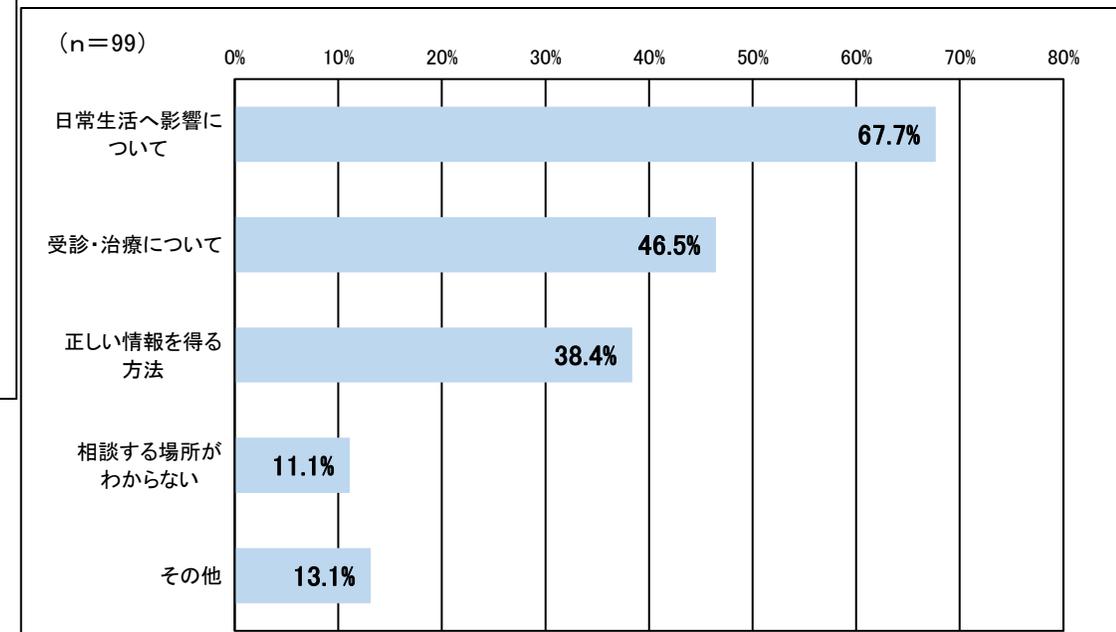
問5. 困っているのはどのようなことですか。(あてはまるものすべて選択)



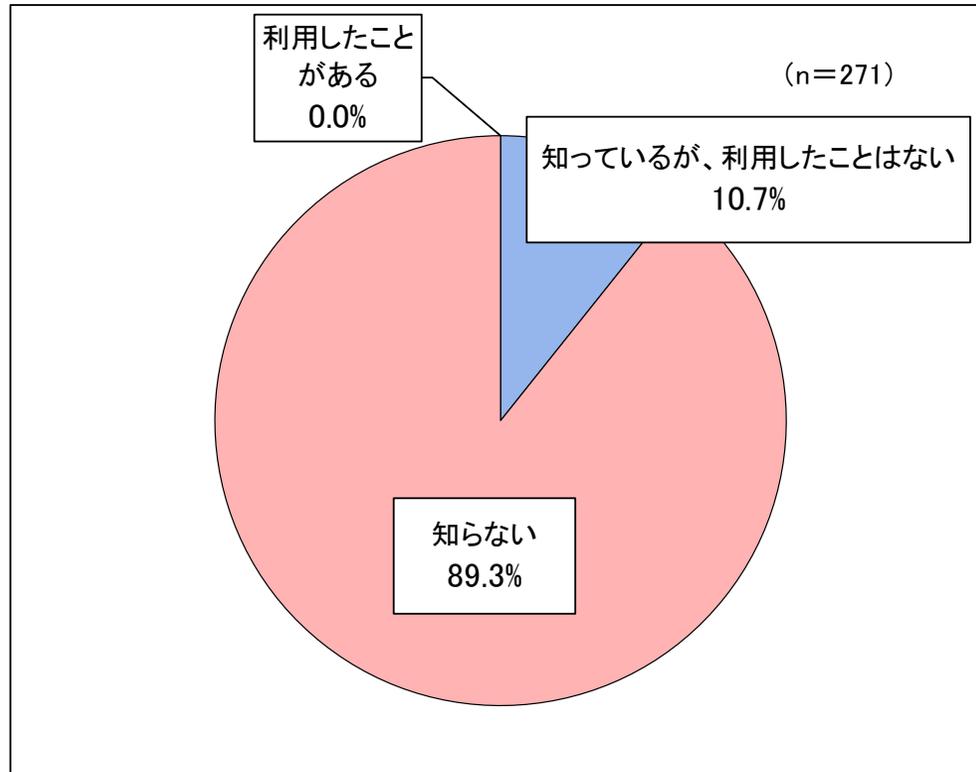
【その他】

- ・ 予防や症状を抑える方法
- ・ 外食時アレルギーの原因食品を完全に避けることが難しいこと
- ・ 発熱時の解熱薬の服用範囲が限定される
- ・ 症状が酷い時に受診すべきか何時も悩む など

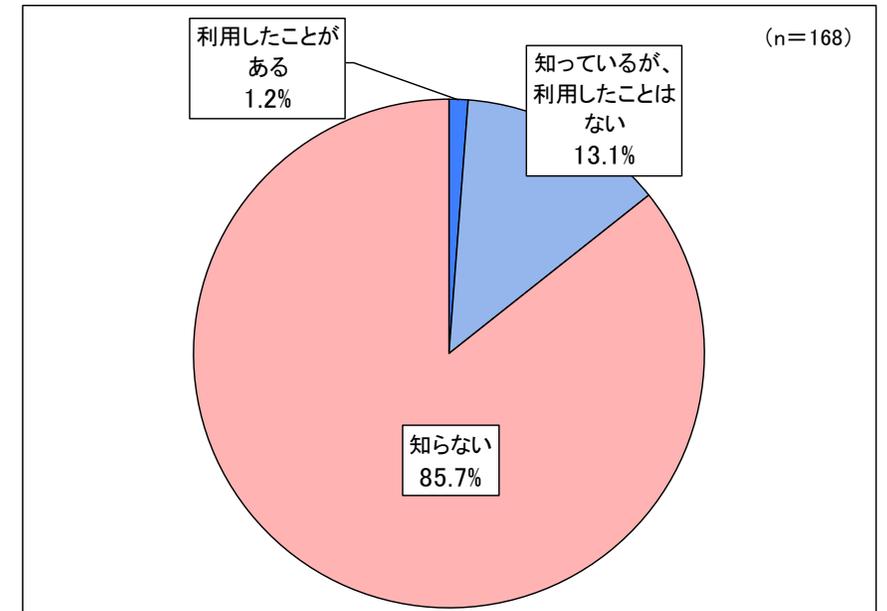
【参考】平成29年度調査結果



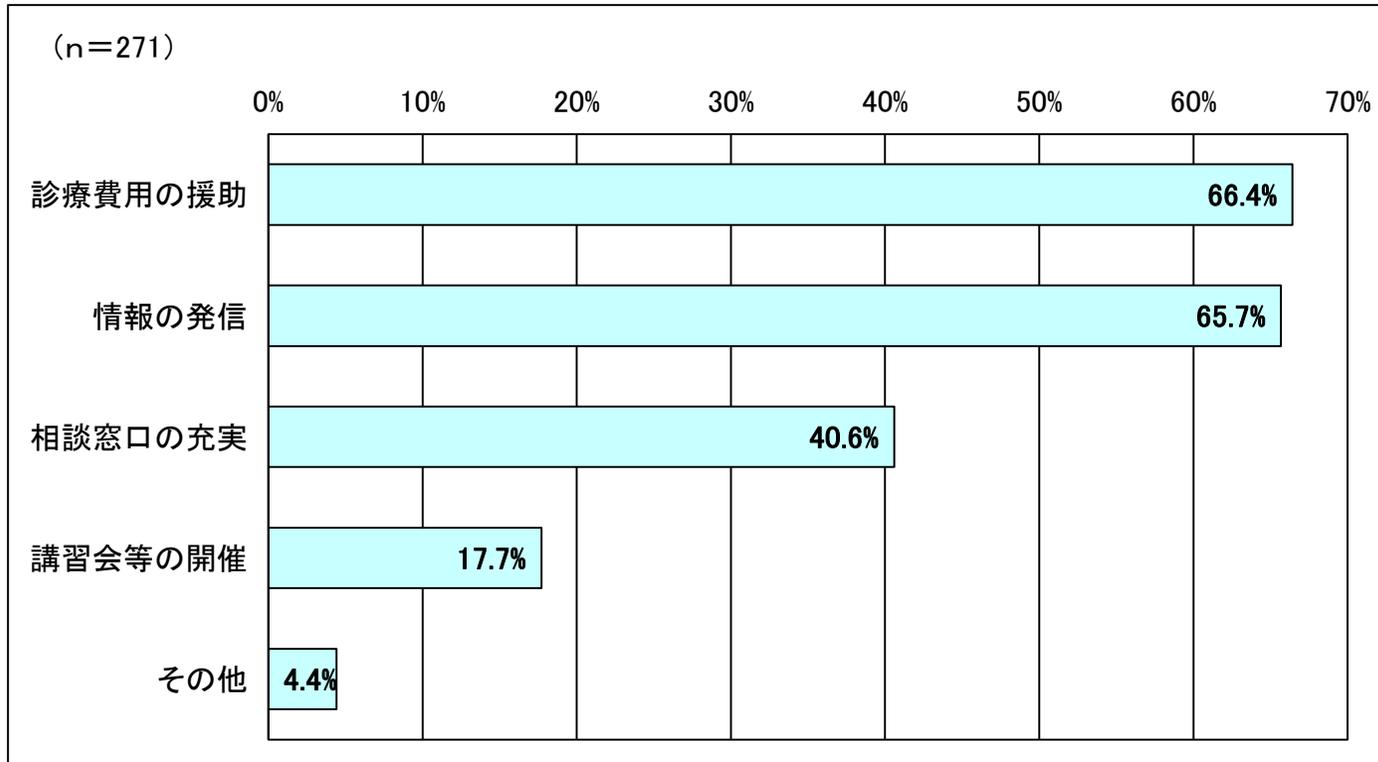
問6. あなたは、「千葉県アレルギー相談センター」の電話相談やホームページを知っていますか。
(1つだけ選択)



【参考】平成29年度調査結果



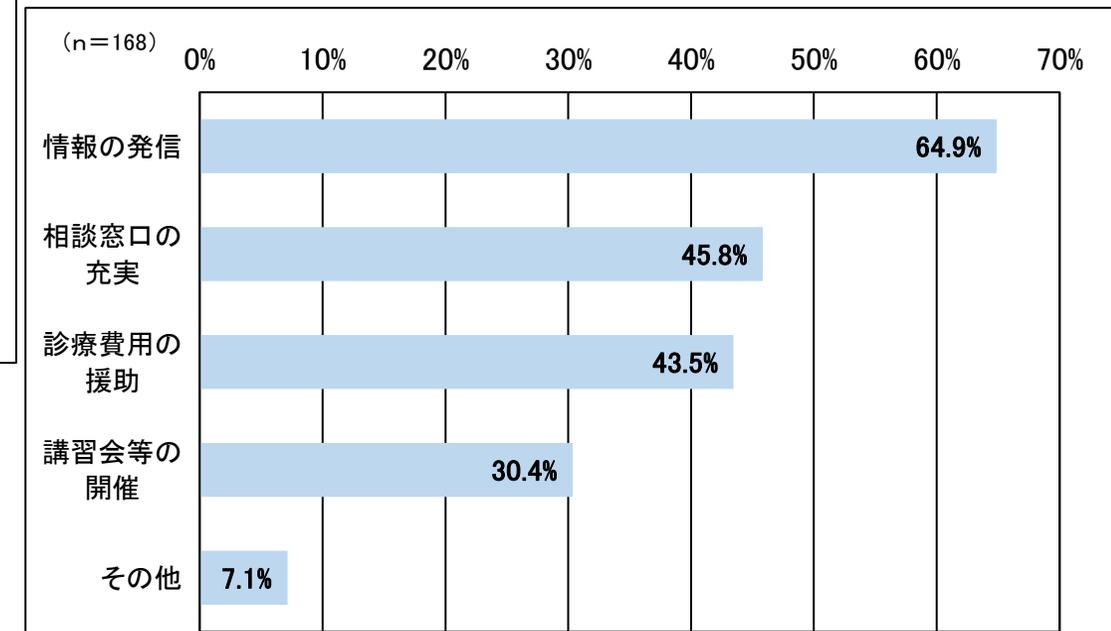
問7. あなたは、アレルギー疾患対策に関して、どのようなことを県に期待しますか。
(あてはまるものすべて選択)



【その他】

- ・学校や保育園等での対応
- ・たらい回しにならないような医療機関の連携
- ・木の手入れ、植樹の検討
- ・アレルギー表示の徹底 など

【参考】平成29年度調査結果



問 8. その他アレルギー疾患対策に関してご意見、ご要望があればお聞かせください。

【一部抜粋】

(1) 相談窓口の充実、周知について

- ・アレルギーなのか、その他の疾患なのか、相談できる窓口の充実を、まず、望みます。
- ・千葉県アレルギー相談センターが設置されていることは勿論、電話相談やホームページがあることも知りませんでした。県民に広く周知して貰うには積極的に情報発信をしていただきたいと思いました。

(2) 情報提供の充実について

- ・今の症状がアレルギーなのか判断するのが難しいので、情報提供に期待したい。
- ・最新の予防方法を広く周知してもらえると重い症状に苦しむ子が減って良いのではないかと思います。
- ・現状医療でどのくらい対応ができているのか、どのような治療方法があるのかも知りたいです。
- ・県で取り組んでいることをもっと知りたい。こちらが知りえるようにTwitterで拡散や、広報誌の発行回数をふやすとか、県民がもっと認知するようにしてほしい。

(3) 生活環境の改善について

- ・ 県レベルでは難しいこととは思いますが、花粉症の原因となる樹種の管理や、将来に向けてそうした草木をどう増減させるべきなのか、花粉症の原因にならないような草木への置き換え等、可能なレベルの研究を進める、補助するなどしてほしいです。
- ・ 花粉症の軽減のために市民として協力できることがあるのか。例えば、花粉を発生させる植物の削減に向けた伐採や募金などのボランティア協力などできないか。
- ・ 最近では飲食店、ホテル、旅館等アレルギーに対して理解してくださり、対応してくれる所が多くなったと思います。ありがたいことだと思っています。より一層の周知活動をお願いいたします。

(4) 講演会の充実について

- ・ アレルギー患者に何をしてあげたら良いかを、オンライン講座などで教えていただきたいです。
- ・ 講演会など参加したこともあります。ぜひ増やしていただきたいです。子連れでも大丈夫なようなアレルギー持ちの子の親としては、講演会などで、詳しい情報、対処法を知りたいです。この子は一生アレルギーと付き合わないといけないのかな、と不安ばかりなので、こうすればひとまず大丈夫、と安心したいです。

(5) 学校等での対応について

- ・ 場合によっては命に関わる問題でもあるので、小中学校では養護教諭や管理職はもとより子どもと関わる全ての教職員が定期的に食物アレルギーに関する研修会を実施した方が良いように思います。
- ・ アレルギーのある子供達でも、安心して美味しく食べることのできる、学校給食の充実を希望します。

(6) 受診等に係る負担軽減、医療体制の充実について

- ・ 症状の深刻な方の為に情報提供や医療費の補助をお願いします。
- ・ 舌下治療や粘膜治療などの補助があると助かる。仕事が忙しく受診の時間が取れないのでオンラインや郵送などの対応があると嬉しい。
- ・ より専門的な病院が多数あると助かります。

(7) 研究の推進について

- ・ 具体的な改善方法の研究が一段と必要かと思います。環境や食事の改善例や必要な医療の方針などをタイムリーに開示することが必要です。
- ・ 対処的対策ばかりでは無く本質的な原因の究明に対する研究助成などの取組も必要ではないか。

(8) その他

- ・アレルギーがあっても安全に生活していけるような手助けを県がしっかりしてくださっていることはとても心強いと思います。
- ・対策を計画しました、推進していますと、やっている感をアピールするだけでなく、具体的に何をいつまでにどうするのかを示していただきたい。
- ・アレルギー疾患というと「アナフィラキシーショックを起こすと命に係わる重大な疾患である」という認識はあったが、私自身はアレルギー疾患を持ち合わせていないこともありアレルギー疾患対策については個人で対応すべきという認識があった。しかし、アレルギー疾患対策を県の施策で対応していることを知り私にもできることがないかという気持ちが湧いてきた。これからも継続していただきたい。

